

3 いね科牧草の出穂特性

1 背景と特徴

いね科牧草は出穂後開花がはじまると、飼料価値が急激に低下する。

最近のように採草地の規模が大きくなると牧草の生育に刈取が追いつかず、刈遅れになることが極めて多い。開花前に1番草を刈終るためには、出穂期のことなる草種や品種を上手に組み合わせると出穂期が連続し、品質の低下しない良い牧草を常に収穫することが出来る。

このためには、各地における主要ないね科草の草種・品種の出穂特性を知ることが必要である。

2 技術内容

- 1) 岩手畜試(岩手郡滝沢村)の51年次におけるオーチャードグラス(Or) チモシー(Ti)、ベレニアルライグラス(Pe)の3~12品種とトールフェスク(Tf)、リードキヤナリーグラス(Re)、ブロームグラス(Br)の各1品種の出穂特性を明らかにした。

その結果

- 2) 出穂の早晚: Or群(5月13日~28日)が最も早く、次いでTf(5月25日)、Pe(5月25日~26日) Re(5月29日)、Br(6月2日)、Ti(6月7日~22日)が最も遅い。
- 3) 出穂始から完了までの期間: Or(13~21日)、Tf(16日)、Pe(20~21日) Re(21日)、Br(25日)、Ti(19~38日)であった。
- 4) 開花始: Or、Tf、Pe、Re、Brは6月7日~14日、Tiは7月2日~9日であり、Or、Tfは出穂完了後開花するがその他は途中で開花した。
- 5) 積算温度: 出穂はOr(200℃)、Tf(260℃)、Re(310℃)、Br(360℃)、Ti(410℃)頃から始まる。

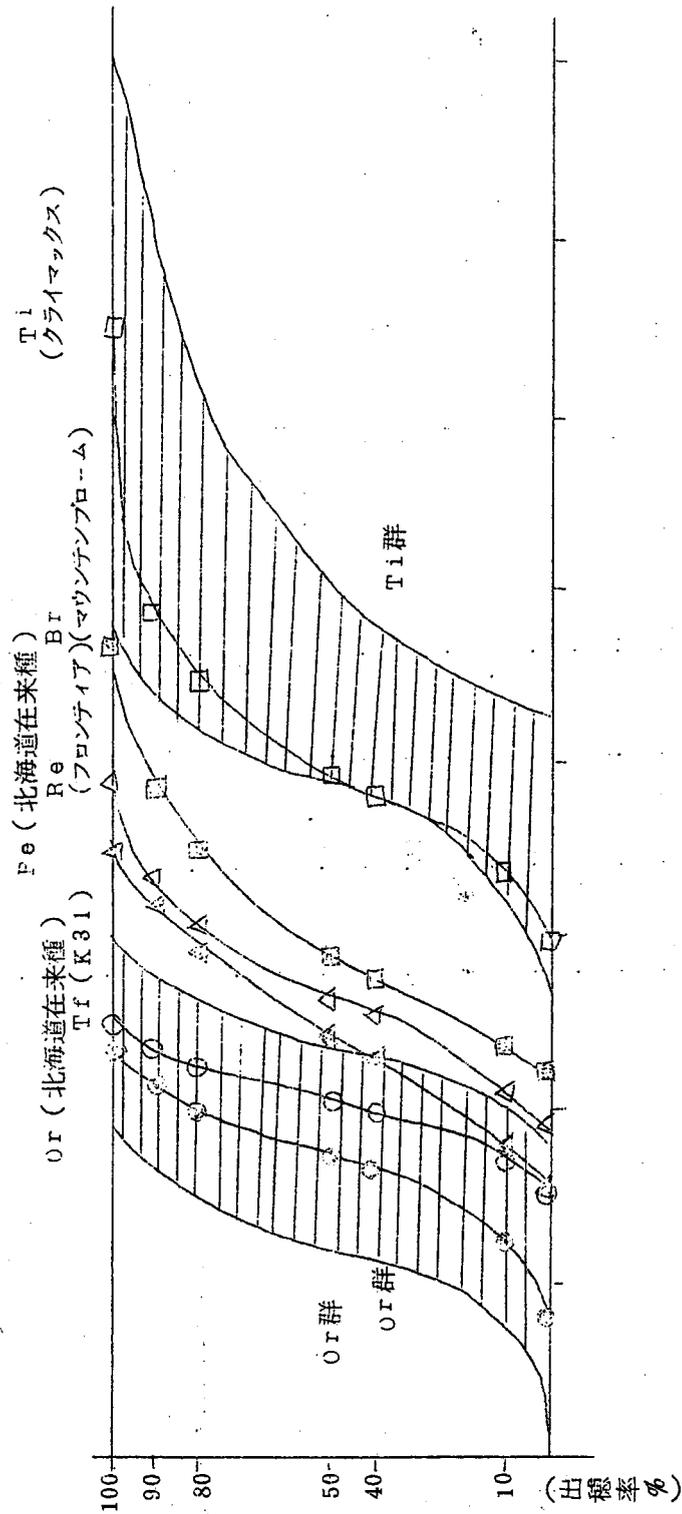
以上から

- 6) 利用適期の拡大(Orを基準として)は草種による拡大: OrとTiにより5月中旬~7月下旬まで刈取適期の拡大が可能。
品種による拡大: 晩生種の利用により、2週間位、利用適期の拡大が可能。
草種、品種の組み合わせによる拡大: 5月中旬~6月上旬(Or)、6月中旬~7月上旬(Or晩生種、Ti早生、中生種)、7月中旬(Ti晩生種)の利用が可能と考えられる。

表一 出穂諸現象の期日、日数、積算気温

草種	品 種	出 穂			開花始	出 穂 始		積 算 気 温			
		始	期	揃		完了まで	開花始まで	出穂始まで	出穂期まで	出穂揃まで	
Or	Chinock (カナダ)	5.13	5.20	5.25	6.7	15	24	149	215	264	
	Potomac (アメリカ)	5.18	5.25	5.28	6.10	13	23	197	264	296	
	岩手在来種 (岩手種牧)	5.18	5.26	5.30	6.10	15	23	197	277	322	
	北海道在来種 (日高種牧)	5.18	5.26	5.30	6.10	16	23	197	277	322	
	不明種-1	5.21	5.27	5.30	6.10	15	20	223	287	322	
	Frode (雪印)	5.21	5.30	6.2	6.11	17	21	223	322	360	
	S 37 (岩手種牧)	5.19	5.29	5.30	6.12	19	24	209	311	322	
	Cressy (オーストリア)	5.25	6.2	6.6	6.12	15	18	264	360	402	
	不明種-2	5.28	6.1	6.4	6.14	12	17	296	346	382	
	Rideau (カナダ)	5.26	6.1	6.5	6.12	15	17	277	346	390	
Tf	Hercules (カナダ)	5.20	5.31	6.3	6.14	21	25	215	334	372	
	Apanui (ニュージーランド)	5.26	5.31	6.4	6.14	15	19	277	334	382	
	ケンタッキー 31 (雪印)	5.25	5.30	6.2	6.9	11	15	264	322	360	
	Re Frontiea	5.29	6.5	6.10	6.12	21	14	311	390	450	
	Ti	New-Pasture Hey	6.9	6.18	6.21	7.2	19	24	436	549	587
		Pasture-Hey (ニュージーランド)	6.7	6.18	6.25	7.2	26	25	413	549	638
		クライマックス (雪印)	6.9	6.18	6.25	7.2	36	23	436	549	638
		CLimax (カナダ)	6.17	6.25	7.1	7.9	33	22	538	638	704
		Drummond (カナダ)	6.17	6.28	7.12	7.9	37	22	538	678	847
	Grassland kahu	6.22	6.28	7.12	7.9	38	17	599	678	847	
Pe	Aberystwyth S23	5.25	6.1	6.5	6.12	20	18	264	346	390	
	北海道在来種	5.25	6.2	6.9	6.12	18	15	264	360	436	
	Ist generation grassland manawarye	5.26	6.3	6.10	6.12	17	13	277	372	450	
Br	マウンテンブローム	6.2	6.3	6.14	6.14	25	12	360	423	501	

図一 草種別出穂率の変化



6) 残された問題点

- (1) 入手、可能草種・品種の(市販種)の収量性を含めた検討
- (2) 草種・品種組合わせ割合の検討

5 参考資料 昭和51年度 試験概要成績書 岩手畜試